姫様な彼女と僕

心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
姫様な彼女と僕

【Ｎコード】
Ｎ７３５３Ｊ

【作者名】
心

【あらすじ】
小さい時に引っ越してきたお隣さんの神林　楓は、お金持ちのお嬢様だ。
俺の親もこいつの家の社員のため父親から昔から楓を困らせるようなことはするなと言われている。そんな不幸な柊　クロのお話です。

最初に

「起きろよ楓。新学期早々遅刻するぞ」
「うるさい。きもい。帰れ。」

もう　そんなこと言われるのが慣れてしまった僕　柊　クロ。
今　起こしているのは、俗にいう幼馴染の　神林　楓　だ。
ゆっくりちなみに、こいつはものすごい金持ちのお嬢様だ。僕の家の隣に家があるのだが、こいつの家とくらべると自分の家が犬小屋みたいぐらい大きい。さらに、客観的に見るとめちゃくちゃかわいい。
身長は１５３ｃｍと小柄でハーフなので髪が金髪なので人形みたいだ。かわいい系だ。だがこの性格なので僕はこいつを思ったことは・・ないとは言わないが５・６歳の時ぐらいだった。

「ああもう　ささっとおｋｊるｄｆ」
「いってええええ！！！何すんだよ！！！！！」

思いっきりすねを蹴られた。

「うるさい人間失格。さっさと出て行け。」

「わかりました。お嬢様どうぞごゆっくりして遅刻してください。俺は先にいきます。」

呆れ気味の僕はそのまま部屋を出た。

「どう　クロちゃん楓起きた？」

「あ、リリさん　今日も無理でした。先に行くっていたけれど後が怖いんで待っていてもいいですか？」

この人は楓のお母さんだ。おばさんと言うと怒るのでリリさんと呼んでいる。生粋のロシア人で楓とは違い美人系の人だ。

「ええ　どうぞ。　ふふクロちゃんもたいへんね。あんな子の幼馴染になるなんて。」

まったくですよ。なんであんな子が生まれたのですか？なんてことは口が裂けても言えないので、心の中で愚痴を言っていた。

最初に（後書き）

コメよろしくお願いします。

1話　始業式

キーンコーンカーンコーン♪

遠くからチャイムの鐘が鳴っている。

「ヤベ、これ遅刻じゃん。急げ楓！！」

「わかってるって寝起きのひとを急かすな。」

「お前だれのせいで遅刻しそうなのわかってんのか！？」

「え　あんたが寝てたのを私が起こしに行ったのに起きなくってやっと起きたとおもったらのんびりご飯食べてたからじゃないの？」

「それはお前だ！！！！俺１度もお前に起こしてもらったことないしのんびり食べていたの自覚あんのかよ！」

そんなこといい学校についたすでに始業式は終わっているらしく生徒のみんなが教室に戻っている途中だった。

「お二人さん始業式から遅刻とはいい度胸じゃん。」

「あ、咲希おはよう。それが下僕がとろくて。」

「あはははは　下僕って言われているよクロ。」

この子は　相原　咲希　中学校からの友達で仲がいい。見た目は背が高く１７２ｃｍはある黒髪でロングで姉御肌なのでみんなに慕わ

れている。美人系のひとで我が清涼高校のベスト3に入る。

「もう慣れた。楓の言葉気にしていると僕はいままで6回自殺しているよ。」

「いやにリアルな数字だな。」

「え　じゃあ私の話、何も聞いてないの？」

そういうとなぜか楓は拳に力を入れていた。

「いや　そういう意味じゃなくてですね。僕のようなものが楓様のお言葉なんてもったいなくてじゃなくて・・えっと　その　　痛っあああああああ。」

鼻を殴られた。少し涙が出た。本当は殴られたから泣いたのかはわからない。

「それより早くクラス表見に行こうや。」

それよりって　人が殴られたのに何もなかったようにするのか！

「そうね　早く行こう。」

クラス表の前に立っている俺は今これから1年無事に過ごせるかの瀬戸際に立っている腐れ縁なのか楓とは小学校、中学校、高校1年と全部クラスが一緒だった。そのたびに毎日いじめられ毎日枕を濡

らしていた。
どうか　神様いるのであればどうか僕に平和と安息の場所を与えてください。
恐る恐るクラス表をみて自分の名前を探すと
「あった２－Ｂだ。そこはどうでもいい問題は１つ楓の名前は・・・・・・・マジかよ。」
「お、またうちら３人一緒だな。」
「ほんとだ。クロまた一緒だよよろしくね。」
そういうと彼女は悪魔の笑みを浮かべていた。周りの男子は見惚れているものもいたが俺には恐怖しかなかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7353j/

姫様な彼女と僕

2010年10月28日00時44分発行